

草地害虫の見わけかた

酪農学園大学講師 坂本与市

(C) 2・3番牧草に多く現れる

- ② クローバ類の莖葉に周辺部から不規則な食痕を残し黒灰色で3~5mm位の小甲虫が棲んでいて、近づくとうちに落ちて死んだまねをする。8月頃発生が多い。

…………ケチビコフキゾウ成虫

また被害クローバの根を掘りおこしてみると、体長数ミリ位で乳白色でやや透明な幼虫がいて、根に食痕を残している。…………ケチビコフキゾウ幼虫

- ③ 生長部の莖葉に群がって寄生し、汁液を吸収しているもので被害部周辺には、排泄物や脱皮殻などをつけて汚染される。…………各種アブラムシ類

- ④ イネ科牧草の穂が上方から不規則にかじられ、莖葉には、ササラ状の食痕があって付近にイナゴに似た虫が跳びはねている。一般に群集加害する傾向があってひとたび群棲性となると、殆んどの植物を食いあらす。…………エゾイナゴ・ヒシバッター・フキバッター等

また各地に毎年普遍的に発生しているもので、体長25mm位、全体は濃緑色で黄褐色の長い触角をもっている。…………ウスイロササキリ

…………ウスイロササキリ

- ⑤ 湿地帯などのイネ科牧草が全般に又は部分的に黄変色し、肥切れで衰弱したようになる。密生している莖葉には無数の小さなセミのような形をした虫が群棲している。…………ウンカ・ヨコバイ類

- ⑥ 赤クローバの花や葉を好んで食害している5mm内外の長卵形、赤褐色ないし青緑色の甲虫。…………ツメクサタコゾウ成虫(新)

…………ツメクサタコゾウ成虫(新)

- ⑦ クローバやルーサン(ルピナス)の葉を残さず食害するアオムシで、体長4cm位に達し、全体緑色で、横腹に黄白色線が走る。…………モンキチヨウ幼虫

- ⑧ 赤クローバやルーサン(ルピナス)の花を好んで食害する幼虫で体長3cm位、緑色で胴部に数条の淡色縦線が走る。…………ツメクサガ幼虫

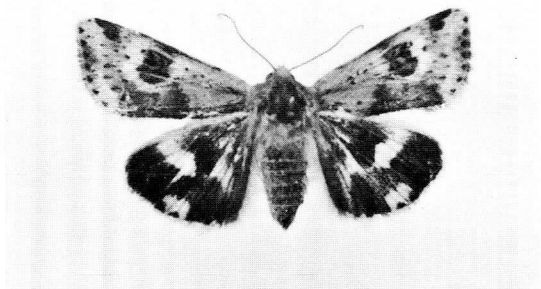
…………ツメクサガ幼虫



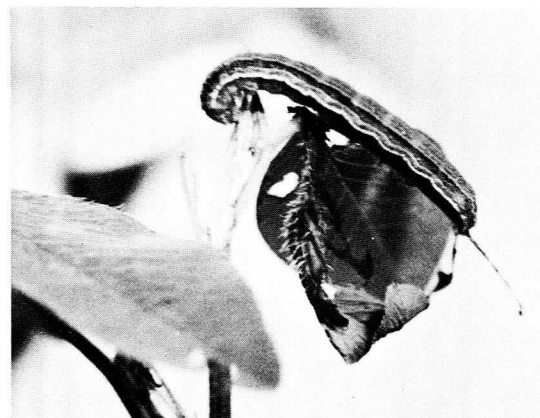
ケチビコフキゾウの成虫



親しみやすいバッタ類も牧草地では害虫となる。



ツメクサガ成虫(×2.0倍)



ツメクサガ幼虫(×1.5倍)